



高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>



Heart to heart 北の志

—ひたむきに頑張る君たちを応援したい—



みんなで拓く別海高校づくり

～地域に開かれた、信頼される学校づくりを目指して～

別海町は道東の根釧台地のほぼ中央に位置し、人口

16,095人・6,353

世帯。(H23.5) 乳肉牛

120,000頭・948

戸(H19.2.1)の酪農

と漁業を基幹産業にしてい

る町である。その広さは香

川県に匹敵している。

本校は、「日は新(日々

これ新たなり)の校訓の

下、「地域の発展を目指し、

郷土の将来を担う前途有為

な人間を育成する」ことを

教育目標に掲げ、自ら学ぶ

人(英知)、

互いに助け合

う人(誠意)、

逞しく生きる

人(実践)を

目指す生徒像

としている。

昭和53年に道

立移管するま

で町立高校で

あったことも

あり、地域に

根ざす学校と

して町や地域

住民から寄せ

られる期待は

大きい。

普通科については、多様

な進路希望の実現に向け

て、授業の工夫や、就職・

進学希望者への各種講習等

を実施している。

酪農経営科については、

基幹産業である酪農の担い

手育成に対する地域の期待

は大きく、地域に根ざした

実践教育の充実を図ってい

る。

平成12年度に新校舎落

成・移転し、平成22年度に

創立60周年を迎えた。

■本校の教育実践

1 健康教育

「身も心も骨太人間」を

キャッチフレーズに町をは

じめ関係機関の支援・協力

により学校全体で健康づく

りに取り組んでいる。

①薬物乱用防止教室

②生と性の講演会

③性に関する授業

④健康づくり研究発表大

会…1,2年生全員が、

各クラスで心身の健康

(悩みや迷い)について

意見発表を行い、クラス

代表1名が全校生徒の前

で意見発表をする。

⑤ミニ人間ドック…別海町

の支援及び町保健セン

ターの協力を得て、3年

生全員を対象に生活習慣

病の予防を目的に行う。

2 地域との連携

地域とともに地域の人材

を育成する、という地域に

信頼される学校づくりを目

指し、地域の教育力を学校

の教育に生かしている。

①総合的な学習の時間にお

ける地域サークル(手話



②酪農経営科における町研

修牧場等の町営施設、J

A施設での搾乳実習・管

理実習・加工実習、さら

の会など)や高齢者との異世代交流、町内の小学校との交流(生徒による出前授業、レクリエーション)



に町内農家での委託実習及び町内企業でのインターンシップ、ヨーロッパ視察研修

③町家畜共進会・産業祭・植樹祭等、町行事への参加

④町内幼小中学校との連携交流事業(農業体験、交流学習等)

3 「北海道コミュニティ・スクール推進事業」研究推進

保護者や地域住民の方々に学校の運営に積極的に関わりを持っていただく中で、その意向を学校運営に的確に反映し、生徒の健全



育成と一層地域に開かれた信頼される学校づくりを進めている。農業関係者やPTA、PTAのOBの皆様に推進委員をしていただき、学校祭などの学校行事、日常の学習活動等、学校の教育活動と連携した具体的実践に取り組んでいる。



子どもと将来のことについて話してみませんか！

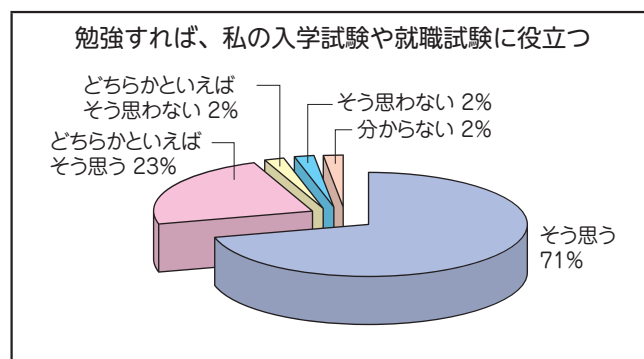
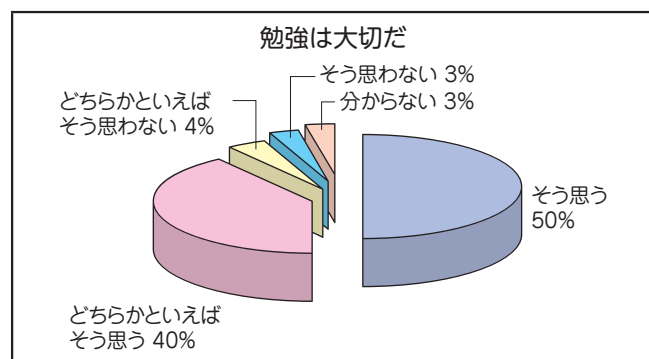
北海道教育委員会

今、高校生の学力向上のため、家庭学習習慣の定着が求められています。

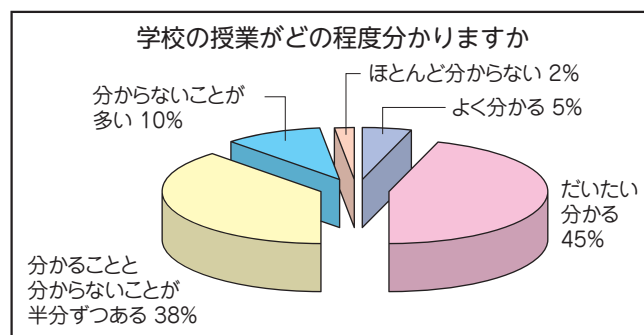
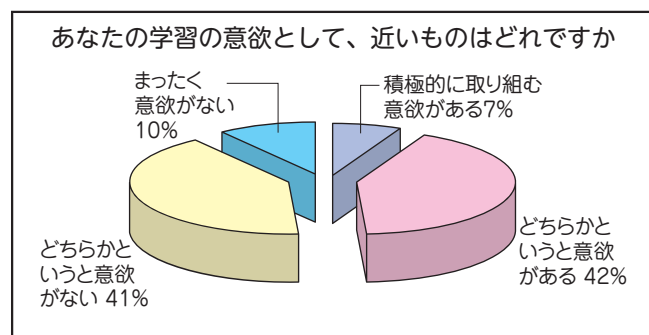
次のグラフは、本道の高校生の「確かな学力」を育成するため、国語、数学、英語の学習内容の定着状況を客観的に把握し、指導方法の工夫と改善を図ることを目的に、今年度4～5月に実施した「平成23年度北海道高等学校学力等実態調査」のなかで、生徒の学習状況を把握するためのアンケート調査の結果から、特徴的な項目について抜粋したものです。（参加生徒：高校2・3年生 計26,919人）



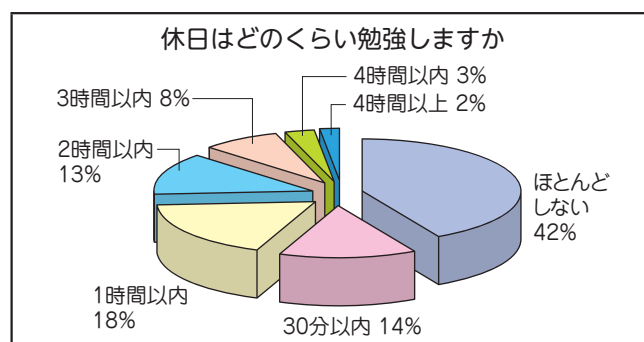
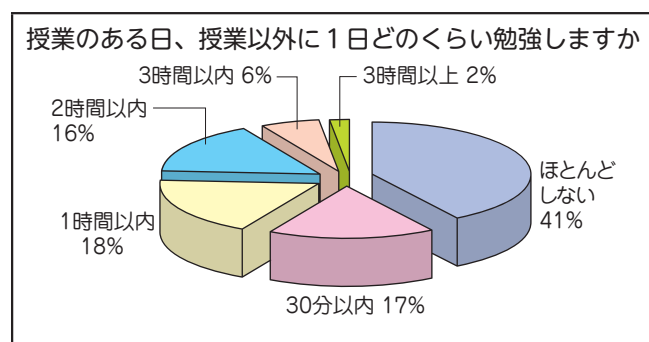
① ほとんどの生徒が勉強は大切であり、自分の将来に役立つと考えています。



② しかし、半数の生徒は学習への意欲が低く、授業の理解も十分ではありません。



③ そして、半数以上の生徒が家庭学習時間は、0～30分となっています。



近年、子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義を見いだせず、にたりして、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった状況が見られるという指摘があります。（中央教育審議会答申（平成20年1月17日）より）

高校生のこの大切な時期だからこそ、自分の将来の姿を考えることや将来の夢を叶えるために努力することの大切さなどについて、子どもと話し合う時間をつくってみてください。

だより

胆振支部

「胆振支部より」

胆振支部長 熊谷 克己
(苫小牧工業高等学校PTA会長)

胆振支部は、私学を含め二十二校二十四単P(生徒数約八七〇〇名)で構成されています。

平成二十二年度は、北海道高等学校PTA連合会第六〇回大会を日高支部とともに運営し、この苫小牧の地に全道各地から一二七〇余名の会員が参集し、成功裏のうちに無事終了することが出来ました。この大会に関係した全ての方に感謝申し上げます。

さて、平成二十三年度は、胆振支部総会を六月三日に道高P連より高間会長・松本副会長・小野事務局員のご参列をいただき苫小牧グランドホテルニュー王子で開催しました。支部総会も大変活発にかつスムーズに会を進めることができました。総会終了後の懇親会では、各校の紹介や行事等の

話があり、大変和やかに有意義な時間を過ごしていただいた事だと思っております。

また、八月八日と九日の二日間に渡り「高校生と語る集い」をホテルニュー王子を会場に八十五名が参加して開催しました。当日は保護者と子供が予定時間を超えての率直な話し合いや元苫小牧工業高校野球部監督の金子満氏と苫小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員長の名越晴男氏のご講演やモデルロケットの製作・打ち上げを行うなど貴重な交流の場となりました。

更に二月二日には、安全対策研修会を札幌未来情報専門学校の三浦龍彦氏を講師としてお招きし「スマートフォン上の安全な使い方」についてのご講演をいただきました。当日は、PTA関係約五十名が参加し、スマートフォンの問題点や課題等の情報を提供していただき、子供達の安全・安心な生活の保障に繋げるため

に大変有意義な講演でした。

さて、三月末をもちまして、胆振支部事務局校としての2年間が終了致します。短い期間ではありましたが、高P連全道大会や高校生と語るつどいの運営や全国高P連北海道大会の地域物産展等多くの行事に関わる事ができました。



来年度は室蘭東翔高校に事務局が移ります。今後も胆振支部の活動がさらに活発化するよう、しっかりと引継ぎをして行きたいと思っています。

平成二十三年 度道高P連第二回理事会

◆午後開催の第二回理事会
議案について協議。

平成二十三年度道高P連第二回理事会報告
平成24年2月16日(木)
・ホテルライフォート札幌
・出席25名、欠席8名(委任状3名)により本会成立。

◆平成二十四年度より「一般社団法人」として新しい組織に生まれ変わる。

◆健全育成・「高校生実態調査」の継続・「薬物乱用防止事業」の推進・新しく「子どもたちの命を守る取り組み」の実施。

◆進路対策・「高校生と保護者の進路に関する意識調査」の実施・就職支援事業の継続。

◆調査広報・「全高P連会報」及び「ホームページ」の充実。

◆研修・全国大会への支援と協力。

◆組織等検討委員会・健全な収支に基づく健全な運営を図るため、平成25年度より8円の値上げについて会長より説明有り。

◆その他・「賠償責任補償制度」の加入者拡大運動。

◆平成23年度道高P連各委員会報告について(総務・研修・健全育成)
◆第1回委員会の協議内容

◆午後開催の第二回理事会
議案について協議。

◆平成23年度道高P連第二回総会・評議員会報告及び各委員会報告について

◆全国高P連「平成24年度事業計画」について説明。

◆報告事項

(1) 平成23年度道高P連会務中間報告について

◆役員、事務局が出席した諸会議について説明。

(2) 平成23年度全国高P連第2回総会・評議員会報告及び各委員会報告について

◆全国高P連「平成24年度事業計画」について説明。

留萌支部

支

部



「変革の時代を生きる」

留萌支部長 村山 ゆかり
(北海道留萌高等学校PTA会長)

北海道の西北部「日本海オロロンライン」に位置する留萌支部は、豊かな自然に恵まれた特色ある7校のPTAが、支え合いながら活動しております。

留萌、羽幌、天塩の普通科高校をはじめ、商業単置校である苫前商業高校、また、電気・建築、情報ビジネス科を設置する留萌千望高校、日本最北の遠別農業高校を合わせた全日制6校と羽幌町沖合約24kmの天売島にある天売高校は、道内唯一の町立定時制普通科校で、全校生徒2名の全道一小さな高校であります。

しかし、生徒数が総じて減少傾向にある中、公立高校配置計画案策定に向けた取り組みが進んでおります。地域キャンパス校の導入をはじめ職業学科の学科転換、統廃合計画など、地域の実情を把握しながら学校・PTA・地域が一体となり真剣に協議を進めていかなければならない時を迎えております。このような変革の時代だからこそ、生

徒一人ひとりが、これからの社会をたくましく生き、新しい時代を創る人となるための学校づくりの微力ながらも力を尽くしていかなければならないと考えております。

留萌支部の平成23年度の活動を振り返ってみますと、札幌で開催されました全国高P連北海道大会は、参加者全員が大きな感動をいただき、支部懇親会は大いに盛り上がり今後の活動への意欲が生まれました。9月15・16日は、羽幌町を会場に支部研究大会を開催。留萌市出身の児童文学者・小笠原治嘉氏が講演。更に就職支援事業として、



北海道若年者就職支援センター長の益山健一氏が「ワカル仕事、ワカル自分」について講演。研究大会には、各校から生徒も参加しており、真剣に耳を傾け素晴らしい感想を述べていただいたことが強く印象に残っております。

さて、24年度は、6月15・16日に旭川市で開催します全道高P連「旭川・留萌大会」と「高校生と語るつどい」の開催と大きな事業を担当させていただくことになっております。留萌支部メンバー誠心誠意準備をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。加を心よりお待ちしております。



のまとめ(議事録)を資料として提示。

◆(4) 平成23年度道高P連「総会」・「全道大会(石狩大会)」について

◆「総会」議事録の確認。「石狩大会」の参加者数等の報告。

◆(5) 平成23年度「高校生と語るつどい」の実施について

◆胆振・後志・名寄の3支部で実施。高P連だより123号に掲載。これをもって単Pへの報告に代えることでした。

◆(6)「WYSHペアレンツ北海道プロジェクト」関連事業について

◆「京都研修会」への派遣事業及び「公開授業」の取り組みについて

◆「京都研修会」へ4名派遣。鹿追高校(駒井亜希子・塚本登教諭)で公開授業実施。

◆「WYSH教育フォローアップ研修会」について1月7日、木原雅子先生を講師に招いて実施。参加者80名。

◆(7) 全国高P連アンケート調査(健全育成・進路

対策委員会)実施校について

◆山本副会長より「キャリアアゲイダンス」について説明。

◆(8) 第61回全国高P連大会「北海道大会」について

◆①現況報告等について

◆各県連広報紙の関連記事を紹介。

◆②決算報告について

◆小野事務局職員より報告。

◆(9)「道高P連災害補償制度」について

◆①平成23年度加入校一覧等について

◆脱退校12校、約6000名の減少。

◆②「給付規程」の改訂について

◆平成24年度より「免責条項」を廃止。

◆③「災害補償制度」支部説明会について

◆後志・胆振・日高・釧路支部で開催。

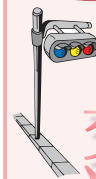
◆(10) 平成23年度「北海道シンポジウム」について

◆平成23年度は全国大会の関係で実施せず。

2 協議事項

◆(1) 平成24年度道高P連

高校生



交通安全標語・ポスター入選作

(高等学校長協会提供)

交通事故死ゼロを目指して

北海道高等学校長協会会長 辻 敏 裕

昨年の北海道における交通事故の犠牲者は215人でした。交通事故による死者数がピークであった昭和46年の889人と比べると4分の1まで減少はしているものの、尊い命が失われていることは、大変心が痛みます。

今年も交通安全関係団体が一体となり「ストップ・ザ・交通事故死」をめざせ安

全で安心な北海道」をスローガンに、交通事故防止活動に取り組んでいます。しかしながら、交通事故を減少させようとの思いも空しく、高齢者ならびに高校生を含む若年者の交通事故の傷ましいニュースが続いています。

こうしたなか、本協会では、調査研究部学校安全小委員会が中心となり、高校

生が自らの命と他者の命を大切にする交通マナーを身につけ、交通事故の危険に對する感受性を高めることを期待して「交通安全標語・ポスター」の募集事業を続けてきており、今年で30回目を迎えます。応募いただいた生徒の皆さんと指導にあたられた先生方に、心から厚くお礼を申し上げます。最優秀の標語とポス

ターは本道高校生のメッセージとして道内の全ての高等学校と関係機関にお届けします。おわりに、募集事業の推進にあたり多大なお力添えをいただいた北海道高等学校PTA連合会の皆様には、心からの感謝を申し上げます。

ポスターの部

最優秀賞



北海道岩見沢東高等学校
2年 武 石 早 代

標語の部

最優秀賞

北海道 みんながつくる無事故の輪

北海道函館水産高等学校 2年 鳴 海 健 司

優秀賞

Eメール 事故も一緒に 受信中

北海道苫小牧西高等学校 3年 上 野 聖梨香

行けるかな 渡れそうでも 待つ勇氣

北海道南茅部高等学校 2年 荒 川 拓 弥

自転車は 被害者加害者 紙一重

北海道岩見沢西高等学校 2年 吉 川 祐 樹

思い出そう あなたの帰宅 待つ家族

北海道岩見沢緑陵高等学校 2年 奥 桃 香

安全は 目から耳から 心から

北海道釧路明輝高等学校 1年 渡 辺 冨 佳

事業日程(案)について
◆承認される。

(2) 道高P連「総会」・全道大会について

①第62回道高P連大会開催案内(旭川・留萌支部担当)(案)について

◆旭川支部宮川明子理事より説明があり、承認される。

②大会前後日程について
◆承認される。

(3) 第62回全国高P連大会・和歌山大会について

◆平成24年8月22日(水)24日(金)、和歌山市・田辺市で開催。取扱業者は一般競争入札でJT Bに決定。承認される。

(4) 平成24年度道高P連暫定予算(案)について

◆田村次長より資料を基に説明があり、承認される。

(5) 平成24年度道高P連役員選考委員会委員の選出について

◆平成24年度の役員を第3回理事会に提案するため、事務局で選考委員を選任することで承認される。

(6) 平成24年度道高P連事務局体制について

◆全国大会の関係で2名増員してきたが、平成24年度から元の4人体制へ戻す。

◆野瀬事務局長は65歳定年を迎えるが、施行細則第14条の3項(3)を適用し、1年に限って事務局長に任用することで承認される。

(7) その他

①平成24年度支部事務局長校について

◆確認を行った。

②各種大会等ローテーションについて

◆確認を行った。

③「新規高卒者の就職支援」(道との連携事業)の取り組みについて

◆道と連携し、パンフレットの作成、生徒への配布、講演会の実施などを報告。

3 その他・連絡事項

(1) 第3回理事会の開催日程(案)について

◆5月17日(木)開催。

V 議長退任挨拶

VI 閉会挨拶

会長コラム

榊原綾子



会員の皆様には、
日頃より、道高P
連の活動にご支援

ご協力いただきましてありがとうございます。
また平成23年度は、全国大会
北海道大会の開催という大きな事業を
行い、大変お世話になりました。皆様
の心温かい、熱意ある活動に敬意を表
しますとともに、あらためて厚くお礼
を申し上げます。

さて、昨秋から、子どもたちが日ご
ろの活動の成果を発表する場や表彰式
などに出席させていただく機会がいく
つありました。本号に掲載の「北海
道高等学校定時制・通信制生徒生活体
験発表会」では、いくつもの困難を乗
り越えて自らの未来に向けて頑張っ
ている高校生の姿がありました。「専
門高校Power Upプロジェクト推進事
業」のプレゼンテーションでは、専門
学科で学ぶ高校生の専門性、技術力、
資格取得のレベルの高さに目をみはる
と同時に、彼らの努力の大きさ、そし

てその学びの中で培われている豊かな
人間性を感じました。「JMCRC）ジャ
パンマイコンカーラリー北海道大会・
全国大会」でも、工夫をこらして作り
上げた愛車を手にレースに参加する高
校生の姿に「ものづくり」を通して培っ
た、決してあきらめない何度でもチャ
レンジする強い心が見えました。この
他、書の道で自らを表現する子どもた
ち、読書感想文コンクールでは、情感
豊かで品格のある文章に感動しまし
た。

子どもたちだけではなく、先生方の
研修会にお邪魔した機会では(WYSH
ペアレンツ・北海道高等学校教育相談
研究会)、子どもたちへの熱い心をもっ
た先生方の真剣に学ばれる姿に、一人
の保護者として大変心強く、また有難
く思いました。

このように北海道には素晴らしい教
育の姿があります。私たちは、こうし
た子どもたちや先生方をしっかりと支
援し、保護者と教師がともに手を携え、
子どもたちを中心に据えて歩んでいき
たいという思いを強くしました。

「改めて命について考える」

全国の高P連だよりから(転載)

まず、東日本大震災の被害に遭わ
れた方々に心よりお悔やみ申し上げ
ます。

未曾有の津波による大災害に加
え、その後の原発問題等、現在もな
お厳しい生活を余儀なくされている
多数の皆様が一日も早く元の生活に
戻れますことを願わずにはいられま
せん。今回の大震災を経験して、私
たちは生かされていることに感謝し
なければいけないという思いを強く
しました。

8月25日、26日に開催された、全
国高等学校PTA連合会大会北海道
大会のテーマは「いのち 輝け！」
でした。精神科医・立教大学教授香
山リカさんの基調講演(生きる力を
つける処方箋)、前旭山動物園園長
小菅正夫さんの記念講演(命をつな
ぐ!!)は非常に有意義なものでした。
特に動物たちがそれ特有の方法で命
をつないできたという話には改めて

岡山県高等学校PTA連合会会長
岡山地区連合会会長

中村有作

感心させられました。強い者が生き
残るのではなく、環境に適応できる
ものが生存していくのだなと感じま
した。

さて、振り返ってみるに私たちは
次世代、また、その次の世代へと命
をつないでいるのか真剣に考える時
機にさしかかっているのではないで
しょうか。われわれが快適に生活す
るために、随分と犠牲にしてきたも
のがあるのではないか、そのツケが
きているのではないかと思わずには
いられません。自然環境についても
しかり、エネルギー問題についても
しかりです。この点については地球
全体の問題としてとらえ、各人、各
国のエゴを捨て、次世代の子どもた
ちが生き生きと暮らしていける環境
整備をしていく必要があるのではな
いでしょうか。
改めて「命」について考えさせら
れた大会でした。

第62回 全国高等学校PTA連合会大会（和歌山大会）

【大会趣旨】

近所のおばさんに朝夕声をかけられたり、よそのおじさんに叱られたり、今思えば、私たちが子どもの頃はいつも誰かが見てくれていました。行き過ぎた個人主義・格差社会…自分を見ているのは監視という名のカメラだけ。世に物や情報が溢れた代償として、私たちは『人とのつながり』という大切なものを失いつつあるのではないのでしょうか？

現在、物質的に豊かで便利な環境に甘んじながらも、このままではいけないと多くの人々が感じています。私たちの大事な子どもたちの環境をもっともっと温かい血の通ったものにしたい、そのためには、家庭や学校だけでなく、地域や公共の力は不可欠です。地域の人たちにも、子どもたちの元気な姿は希望となります。大人も子どもも共に育つ社会をめざして、私たちにできること、私たちがやるべきことは何なのか。真剣に取り組んで行く場にしたいと願っています。

メインテーマ **和をもって響き合え！** サブテーマ **～つれもて広げる 共育の輪～**

大会 第1日目	
時 間	8月23日（木）
9:50～	受付開始
10:10～10:40	オープニング アトラクション
10:50～12:00	開会式・表彰式
12:00～13:10	昼食・アトラクション
13:10～15:40	基調講演
15:45～16:00	全体会

大会 第2日目	
時 間	8月24日（金）
9:00～	受付開始
9:30～ 9:35	開会式
9:40～11:40	分科会
11:45～12:00	閉会式

◎分科会会場

- * 第1分科会……………（和歌山ビッグホエール）
- * 第2分科会……………（和歌山市民会館〈小ホール〉〈市民ホール〉）
- * 第3分科会……………（武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ〈メインアリーナ〉）
- * 第4分科会……………（武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ〈サブアリーナ〉）
- * 特別第1分科会…（紀南文化会館〈大ホール〉）
- * 特別第2分科会…（和歌山市民会館〈大ホール〉）

第62回北海道高等学校PTA連合会大会 （旭川・留萌大会）開催要項（案）

- 主 催 北海道高等学校PTA連合
- 主 管 北海道高等学校PTA連合会 旭川・留萌支部
- 後 援 北海道教育委員会 旭川市教育委員会 北海道高等学校長協会
- 日 時 平成24年6月15日（金）・16日（土）

日	内容	時間	会場
15日 （金）	道高P連総会	10:00～12:00	旭川グランドホテル 彩雲の間
	受 付	12:30～13:30	同
	開会式・表彰式	13:30～14:30	同 グランドホール
	講 演	14:30～16:00	同 グランドホール
	懇親会	17:00～17:30	同 グランドホール
16日 （土）	懇親会	17:30～19:00	同 グランドホール
	受 付	9:00～ 9:30	旭川東高等学校
	分 科 会	9:30～12:00	旭川商業高等学校

- 会 場 旭川グランドホテル 旭川市6条通9丁目
TEL：0166-24-2111
旭川東高等学校 旭川市6条通11丁目
TEL：0166-23-2855
旭川商業高等学校 旭川市曙3条3丁目
TEL：0166-22-3556

6 大会主題 「価値観の多様化時代、子供たちの主体性を育む意欲的なPTA活動を」

【要旨】 急激に変化する時代の中で、とすると自分を見失いがちな若者たちが増えている。本来夢多きはずの子供たちを取り巻く教育環境も、未だ学校・家庭・地域の教育力の低下が叫ばれて久しい状況にある。それらの様々な要因を背景に、今一度心豊かな逞しい青少年を育むために、会員が一堂に会して情報や意見を交換し、新しい時代に向けての指針を探る一助とする。

7 大会メッセージ

「雄大な大雪山」、夕日に輝く黄金岬 この豊かな大地に集い 自然の恩恵に感謝し、未来への架け橋となる子供たちが、風雪に耐え、逞しく、健やかに成長することを願い、エールを送りましょう。」

8 分科会構成と研究協議

- ・25～30名程度で40～45グループを構成し、情報交換・意見交換を行う。
- ・各分科会ごとにテーマを設けるが、参加者の意向を踏まえて進行することを基本とする。

9 講 演 演 題 未 定

講 師 講師 神 田 山 陽 氏

10 費 用 参加料 4,000円 懇親会費 5,000円 集録代 1,000円

11 参加申込 第62回北海道高等学校PTA連合会大会（旭川・留萌大会） 参加・宿泊申込書を下記事務局へ、メールkyokunanpta@hokkaido-c.ed.jp または専用FAXに送付

12 申込締切 平成24年4月27日（金）

13 事務局 北海道旭川南高等学校内 第62回道高P連 旭川・留萌大会 事務局 〒078-8803 旭川市緑が丘東3条3丁目1番1号 TEL：0166-65-8770 （専用TEL）0166-60-5505 （専用FAX）0166-60-5506

北海道高等学校PTA連合会は、
高校生のための「災害補償制度」を
主催しています。

☆平成24年4月1日から「給付規程」
を改正します。

☆変更点：通院給付の3日免責条項
を撤廃し通院一日目から給付され
ます。

多くの学校の参加を
期待しております。

私にジャストフィットする保険を選ぶなら
いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもぴったりの「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。

